

開運成就 粟生聖天

真言宗 智山派

定福寺だより



定福寺飛び地境内 旭観音堂

蓮咲くは
笑い地蔵の
在す寺

能傳子

新四国曼荼羅霊場第六十一番

2022年61号

みずのえとら
壬寅

ごあいさつ

住職 釣井 龍秀

皆様におかれましては、日々定福寺にご高配を賜りありがとうございます。また、二〇二三年の事業のために多くの方々にご助力を賜り本当にありがとうございます。

社会状況が落ち着かない中ではありますが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。様々に制限を強いられており、辛い状況にあります。これだけ長期間このような状況に置かれていると、現状が日常となりつつある部分もあります。観光事業や飲食事業は打撃を受ける一方、新たな生活により供給量が増加し、忙しくなった分野もあるようです。鴨長明の『方丈記』に「行く河のながれは絶えずして、しかももとの水にあらず。よどみに浮ぶうたかたは、かつ消えかつ結びて久しくとどまることなし。世の中にある人とすみかと、またかくの如し」とあります。人口の増減について国際教養大学の工藤尚悟先生も、「川の淀みに似ている」とおっしゃられていました。淀みとは、ゆるやかに流れて溜まっているような場所のことです。川が緩やかに流れる場所で、地形によって淀みは大きくなります。また、浅くて急流の場所では淀みはおこりません。職種による需要と供給の変化や人口増減と同様に、社会の環境や価値感の変化によって、様々なことが変容していくことを、我々は今実感しています。

この感染症が始まった際、私も生活が変化すると感じていました。その要因はいくつかあるのですが、その一つが、体を動かせる環境の問題でした。私は九年近く高知市内で小学生にサッカー指導を行っています。高知市内の子供たちも、当初は外出もままならない様子でした。一方で密集ではない豊永に住んでいると、

ある程度自由に外で体を動かしたり、作業をすることが可能でした。外に出て空気を吸うことの有難みを感じ、体を少し動かすことで、ストレスが減少することを感じていました。もう一つが、インターネット環境の充実とリモートワークの普及でした。会社に出社しなくてもある程度の仕事は、在宅で行える環境が、感染症という外的な要因をきっかけに、行われるようになりました。私も会社員時代には、仕事はそのまま、自然環境の充実した田舎で暮らしたい、と考えていましたが、当時は、そのような環境はありませんでした。外で体が動かせ、仕事ができる環境を考えると、豊永郷は適した住環境ということになります。

一方で、インドで起こった仏教集団は、当時より人が多く住む、都市部近郊でしか持続できない集団でした。定福寺は二年後に千三百年を迎えます。古来より続く寺院やお宮の多くは、当時の有力者の庇護や多くの人々のお陰で建立され、維持されてきました。宗教者たちは一見、山奥でひっそりと修行をしている印象がありますが、定福寺の属している真言宗智山派では、作法や修法を学ぶ場は京都の総本山智積院が中心であり、經典などを学ぶ場は、東京の智積別院真福寺や都市部の大学です。

これらを考慮し、定福寺では新たな取り組みを始めました。感染症拡大以降に計画し、始めたのがユーチューブでの生配信です。祈りに重要なことは、祈る場所・空間の荘厳、御線香などの香り、僧侶の読経だと私は考えています。定福寺は地理的環境の問題からお彼岸やお盆は、皆様にお寺に集まって頂いています。今回の感染症により、それが叶わなくなりましたが、お祈りはさ

せて頂くようにご案内をいたしました。しかし、施主様からすれば、祈りに重要なことが、すべて満たされないことになります。

そこで、苦肉の策ではありますが、少しでもお寺でのお祈りを感じて頂きたいと思い、インターネットを利用してお祈りの様子を配信することといたしました。お寺に行きたいと考える方もいらっしゃると思いました。遠方の方やお歳を召された方には、良かったという意見も頂戴いたしました。様々な意見を頂戴いたしました。定福寺では、他ではあまり行われていないようなお祈りも続いています。それらの様子を、ご覧いただく機会がありませんでした。これを機に、ユーチューブで多くのお祈りの様子を配信し始めました。また感染症以前から計画していたことも徐々に進んでいます。御法事をご依頼される方の多くが住む場所が、高知市内となりました。そこで、高知市内に観音堂を建立し、御法事ができるようにさせて頂いております。二〇二一年は毎月、三家族の御法事が執り行われました。周辺の方で新たにお檀家さんになりたい、永代供養はお頼みできますか、というお話も伺っております。定福寺の境内は徐々にバリアフリー化が進み、お寺での御法事には車いすやベーカーでもお越し頂けるようになりました。ただ、駐車場入り口が急斜面になっておりご迷惑をおかけいたしております。

日本全国には、多くのお寺がございます。どのお寺もその時代の住職により変化するところ、変化させないところの判断がなされています。

真言宗には、「身口意」という言葉があります。身は体、口は言葉、意は心・精神を顕しています。人は、相手に自分の意思を伝えるには、言葉、文字を書くなど体で道具を使うこと、ジェスチャーなど直接体を使うことでしか伝えることはできません。そ

の言葉と体を使つての表現は、すべて人が何かを感じ、また考えたことが基になっています。心や精神が、すべての基になると仏教では考えます。真言宗では、戦前までは「遊学」といい外で学ぶ事も重要でした。定福寺の属する智山派の管長が以前、若い頃は東大寺で華嚴を学び、興福寺で法相唯識を学んだとお話をされていました。また、昔は南都に宗派を超えて遊学をしていたことも伝えられています。仏教は二千五百年以上、広く学び心の在り方を厳しく見続けてきた宗教です。

ご案内のように、私は在家から仏教の世界に参りました。これまで多くの先生方や地域の方々から学び修法し、祈り、豊永郷の昔の様子や、定福寺に引き継がれてきた經典を観て考えて心を築いてきました。住職となり、現在進めている事業や改修は、人口減少が著しい定福寺を今後も護持していくために、今必要だと思うことを進めています。私が定福寺に住し始めた二十五年前は、五千五百人の人口でした。現在三千人です。

好き勝手なことをしていると御批判も承っておりますが、定福寺を維持していくためだということを何卒ご理解を頂き、ご賛同を頂ければと思います。

二〇二三年には、定福寺を護持していくための姿が、すべて完成いたします。皆様方には、ご理解とご賛同、大きなご助力を賜り行事が進んでおります。本年度中に檀信徒会館（旧ユースホステル）は解体される予定です。寺族一同、より一層精進いたします。今後ともご支援のほど宜しくお願いいたします。



聖天尊浴油祈禱

定福寺飛び地境内 旭観音堂

旭町に定福寺の飛び地境内として観音堂が完成し、令和三年よりすでに多くの方々にお越し頂き、御法事を執り行っています。

定福寺には各地区にお堂があります。このお堂は、江戸時代に建立されたものや、それ以前から地域で守られてきたお堂です。これらのお堂が廃仏毀釈の折、廃堂になることを避けるために、定福寺の飛び地境内として登録されたようです。



定福寺飛び地境内 旭観音堂



スロープ

以前もお伝えさせて頂きましたが、現在、高知市内や南国市での御法事が、豊永でご法事をする方よりも多くなっています。高知市内のご自宅は、豊永のご自宅とは造りが違うために、葬祭センターのような場所をお借りして、御法事をなさる方も多くなりました。定福寺では、住職の実家（六十年以上前に父が購入）である家を改修し、一階をご法事ができるようなお堂にいたしました。

ご自宅や定福寺、また旭の観音堂など、皆様方のご都合がよい場所で、御法事を執り行うことができればと思います。遠慮なくお申し付けください。

宝物館



宝物館は当時推奨されていた自然空調システムを導入していますが、設計当初とは気候が変化し、宝物館内は夏場の温度が四〇度近くになってしまいました。解決するために、喚起施設を四ヶ所設け、空気の流れを作っていました。それでも解決せず、四年前に冷暖房を導入し、一定の温度で管理ができると考え換気を止めていました。しかし、外気を取り込む設計となっている上に、喚起を止めたために、仏像が安置されている硝子内（硝子ケースではなく、天井部分は開いている硝子の衝立状態）の半分以下の部分の空気の移動が無くなり、カビが発生してしまいました。今回硝子をすべて撤去し、外気取入れ部分を塞ぎました。それに伴い、展示を少し変化いたしました。お立ち寄りの際は、ご覧ください。

定福寺おやつ



全国には、「おてらおやつクラブ」という団体があります。紹介文によれば、「日本国内における子どもたちの貧困という社会課題に対して活動しています。経済的な困窮を抱えた家庭への「おすそわけ事業」、子どもたちの貧困問題をより多くの方々に知っていただく「啓発事業」、文化的な機会や居場所を提供する「学び・居場所づくり事業」の活動を行っています。」とのこと。

定福寺では、地域の学童へのおすそわけとして、お供えに頂いたお菓子をお届けいたしております。

定福寺第三駐車場完成とサッカー教室開催

年間に数台観光バスで定福寺や宝物館、豊永郷民俗資料館に団体で拝観にお越しになられます。また、お盆やお彼岸、土砂加持法要には多くの方が車でお越しになられます。四三九号線沿いの土地を購入し、定福寺の第三駐車場を建設いたしました。このような平らな場所は豊永郷では少ないので、駐車場として使用しない時には、多くの方に体を動かし、スポーツや散歩をする場所にしていただければと思います、人工芝を敷きました。きっかけと二つあります。一つは息



定福寺第三駐車場

人工芝を敷いています。
やさしい運転をお願いします。
工事車両・重機の進入はご遠慮ください。

第三駐車場

子が小学校の頃に保護者の方に、豊永でもサッカーを教えると言われたことです。もう一つは、PTAの会長をさせて頂いていた折、年配の方から、運動会などの行事に参加がでなくなり、子供との接点が少なくなったというご意見をお聞きしたことです。そこで年配の方々がされているグラウンドゴルフやゲートボールなどを敬老の日などに子供たちと一緒にできないかと思いました。

駐車場としては、使用を始めていますが、二〇二一年十二月五日に初のスポーツイベント「サッカー教室」を開催いたしました。大豊町からは五人、高知市内から四人が来て、私がコーチをしていた中学生も十人ほどコーチとして来てくれました。これからも、試行錯誤をしながらスポーツイベントを行えばと思います。

この駐車場で遊びたい方は、車がない時には、ご自由にお使いいただけます。スポーツ環



境維持基金箱を置いておきます。ご協力いただければ幸いです。

第三駐車場は人工芝なので、工事車両や重機の進入回転は、ご遠慮いただいています。第二駐車場は、これまでの駐車場の下(急な坂道を登った場所)にあります。ここには、車いすの方やベビーカーを押して持仏堂までお越しになられたり、境内(持仏堂がある場所)を散策できます。多目的のトイレも完備しています。ただ、本堂のある場所には、現在急な坂道を降りて、車で第一駐車場まで上がらなければなりません。ご注意ください。

住職動向

- 一月 大豊町観光開発協会会議
- 四月 ミュージアムネットワーク会議
第二回報恩院流一流傳授 於京都
上田設計打合せ
おおよと小学校へ訪問 聖火トーチ披露
豊永郷民俗資料館虫害調査(高知県)
観光開発協会理事会
宝物館硝子除去作業
大豊町観光開発協会評議会
大豊町観光開発協会虫害調査
宝物館・豊永郷民俗資料館虫害調査
狩野美工打合せ
- 六月 高知城博物館 評議会
イカリ消毒打合せ
定福寺第三駐車場打合せ
ミュージアムネットワーク理事会
高知歴史民俗資料館にて、仏像・神像・土佐いはいく観光協議会
竹林寺結婚式打合せ
竹林寺結婚式
高知大学来年度講義に関する取材
NHK取材
高知城博物館 調査打合せ
奈良文化財研究所 定福寺仏像調査
NHK取材
- 十一月 JAL定福寺・豊永郷民俗資料館見学
高知大学打合せ
大豊町観光ガイド養成講座
第三回 報恩院流一流傳授 於京都
高知大学体験講習
大豊町観光ガイド養成講座
松浦佐用彦 改葬供養 於東京
布薩戒受戒・講義 於高野寺
高知県観光協会視察のため案内
ミュージアムネットワーク理事会
日本博物館協会全国博物館大会
高知大会実行委員会
第四回 報恩院流一流傳授 於京都
根来寺 仏画師牧有恵宅 訪問
- 十二月

松浦佐用彦のお墓を改葬

豊永郷出身の松浦佐用彦をご存知でしょうか。彼は黒石地区の出身で、お父様は定福寺の過去帳にも記載されています。その松浦佐用彦は大森貝塚を発見したエドワード・モース（以下モース）の助手として友人と共に発掘調査を行った人物であり、近代日本考古学の先駆者と言われている人物です。松浦は一八五三年生まれ、幼時期に父を亡くしていますが、優秀だったので土佐藩の給費生として上京、東京開成学校予科を卒業し、できたばかりの東京大学の動植物教室に入りました。この時の教授がモースです。しかし翌年の一八七八年七月五日に十二歳の短い生涯を閉じました。悲しんだモースは『日本その日その日』という著書で多くのページを割き、松浦佐用彦について記述をしています。その一部を紹介いたします。「私の特別学生の一人で、私がことのほか愛していた松浦が、昨夜病院で、あの脚気という神秘的な病気が原因して死んだ。彼は大部長いこと病氣していたので、

私は度々病院へ見舞に行った。すると彼は、学校の仕事がどんな風に進行しているかを質ね、最後の瞬間まで興味を持ち続けていた。私は、私が埋葬地まで一緒に行ってやったら、彼の同級の学生達をよろこばせるであろうというのを聞いた。彼の母や妹や親類たちは、五百マイルも南の方にいるので、来ることが出来なかった。学生は百人ばかり集り、我々は棺が出て来る迄しばらく待った。（中略）殆ど二マイル半ばかりも歩いて、我々は墓地へ着いた。ここは大きな木や、花や、自然そのままの景色に富み、非常に美しい場所であった。我々が通り過ぎた人々は、行列の中に外国人がいるので、いぶかしげに見送った」「E・S・モース一二〇」とあります。

松浦佐用彦が亡くなった時、郷里へ連絡しても家が零落していたためか、返事がなかった、とあります。この埋葬場所が、現在の東京都の谷中霊園です。モースは葬儀と墓石の費用を払い、一八七九年七月八日に立て

られた墓に、学生たちの求めに応じて、墓碑の裏に英語で「忠実な学生、そして真摯な友人。科学的な探究心とともに、倫理を信じて自然を愛し続けた人。権威ではなく、観察と経験によつてのみ真の言葉に到達できると確信していた人。それが松浦君だった。エドワード・S・モース」と書いています。更に日本語の墓碑銘は書家の日下部鳴鶴が書いています。一九四〇年（昭和十五年）まで、モースの弟子であった人々によつてお墓参りは続けられていたということ。この墓は同級生佐々木忠次郎（のち東京帝国大学農学部教授、昆虫学者）、法学部の学友末延道成（のち英国留学、三菱に入る）によつて守られてきました。身寄りのない墓を承継したのは末延氏とその子孫であることを、私は突き止めて、連絡をいたしました。二〇一三年十月十五日に谷中霊園の松浦佐用彦墓地の所有者の方と連絡ができました。連絡を取った目的は、豊永郷の子供たちや定福寺を訪れる



方々に、この場所から学ぼうとして、一生懸命生活をしていた松浦佐用彦の存在と、彼に向けてモースが残した言葉を知って頂くために、墓石の裏に掘られた言葉の拓本を取らせていただき、豊永郷民俗資料館に展示させてほしい、ということでした。

当時、所有管理をされていた方が、茨城県のつくば市にお住まいということがわかり、お会いさせていただきました。その際に、母から引き継いだお墓ですが、次の世代に私は引き継ぐことができないので、そのようなご縁のあるお寺さんでしたら、お墓の改葬と永代供養をお願いできませんか、というお話を頂きました。しかし、その時は諸事情によりお墓の改葬は行われませんでした。それから七年、そのままとなっておりましたが、二〇二〇年十月十二日

に、所有者の方から連絡がありました。お話によれば、所有権を親類に譲渡され、松浦佐用彦のお骨は改葬されどこのお寺に永代供養され、墓石などは処分されるということでした。お墓を所有管理されている方は、以前よりお墓や墓碑の重要性をご理解いただいております。諸事情があったことは承知の上で、所有権が譲渡される前に、所有管理をされている方のご判断で、定福寺にすべて改葬し、永代供養をお願いしたいというご連絡でした。定福寺では、各所に連絡をし、お受けすることの確認と了解を得ました。二〇二一年十二月一日に東京の谷中霊園へ赴き、お祈りをさせて頂きました。そして、十二月十日に定福寺にすべてが届き、墓石を建立するまでの間、持仏堂でお祈りをさせて頂いています。

■参考文献

E・S・モース

一九七〇『日本その日その日2』

訳 石川欣一・東洋文庫一七二二〇—二二二



定福寺 出開帳のご案内

皆様は、出開帳という言葉をご存知でしょうか。出開帳とは、お寺の仏さまが別の場所に一時安置され、御開帳されることです。二〇一四年十月号の高知市広報の『あかるいまち』には、竹林寺の文殊菩薩さまが出開帳された時の様子が示されています。「本尊が初めてご開帳されたのは、今から三百年前の宝永元（一七〇四）年のことである。実は、この時のご開帳は竹林寺で行われたものではなく、出開帳として遠く江戸の地で営まれたものであった。この出開帳にまつわる史料によると、江戸までの道のりについて、本尊は甲浦から大阪まで海路で進み、その後は「荷物は船にて廻り、文殊は陸路なり」とあり、



矜羯羅童子



不動明王



制多迦童子

東海道を上ったといわれている。会場となる護国寺に入る時には、土佐藩邸や護国寺に出入りする人々など総勢千人を超す江戸の町人が同行し、盛大に会場入りしたといわれている。会期中は大勢の町人が連日詰め掛け、護国寺でのご開帳を終えると本尊は江戸城内に移り、五代將軍徳川綱吉公の生母・桂昌院（けいしょういん）など城内のあらゆる女人がその尊容を拝したと伝えられている。その後は大坂の生玉曼荼羅院（いくたま まんだらいん）を会場に、土佐に戻ってからは竹林寺でのご開帳を行なった」と記されています。

定福寺に新たにお越し頂く不動明王座像・制多迦童子・矜羯羅童子童子の三体の仏さまを、高知市の旭観音堂でゴールデンウィーク頃に出開帳を行いたいと考えています。詳細が確定いたしましたら、皆様にお伝えをいたします。

講堂建設志納金の感謝録

大豊町

沖

一、金 十二万円也

前田 大子様

高木 叡郎様

小松健一郎様

小松 正義様

一、金 三万円也

小松カヅ子様

大畑井
一、金 十二万円也

西村 澄子様

笹岡 修一様

西村 明政様

笹岡 愛子様

三谷勇太郎様

永森 誉様

一、金 九万円也

三谷 博信様

笹岡 洋子様

一、金 六万円也

永森 高子様

笹岡マリ子様

一、金 三万円也

西村登美子様

三谷 敏文様

一、金 二万円也

三谷 優子様

久生野

一、金 十二万円

笹岡香代子様

一、金 六万円也

大田 昌通様

一、金 三万円也

渡辺 栄蔵様

一、金 一万円也

笹岡 信子様

氏原 菊子様

土居番

一、金 十二万円也

大田宏一郎様

三谷 良子様

三谷三治雄様

一、金 三万円也

松尾吉太郎様

小松 憲一様

野々屋

一、金 十二万円也

三谷 敏文様

前田 品子様

上地 健一様

三谷 賀彦様

前田 孝男様

小笠原啓元様

永森亀太郎様

永森 宗雄様

氏原ヒロ子様

小笠原良太郎様

重森 好文様

一、金 二万円也

渡辺 昭子様

一、金 一万円也

氏原ヤスミ様

瀧久長

一、金 十二円也

三谷 敏子様

一、金 三万円也

八木 恒子様

一、金 二万円也

吉永 洋子様

一、金 百万円也

前田幸太郎様

一、金 十五万円也

前田 波穂様

一、金 十二万円也

上地 孝男様

前田 尊博様

平石 正宣様

松田 健一様

三谷 賀彦様

上地 健一様

前田 品子様

三谷 賀彦様

上地 健一様

前田 品子様

三谷 賀彦様

上地 健一様

一、金 三万円也

前田 米穂様

前田 勝水様

前田 米香様

三津子野

一、金 十三万円也

豊永 信一様

一、金 十二万円也

西村 茂頼様

一、金 一万円也

三谷 常敏様

怒田

一、金 十四万円也

三谷 秋香様

一、金 十二万円也

小笠原貞雄様

門田 福實様

渡辺 伸子様

森尾 憲一様

朝倉 榮一様

川崎 幸男様

一、金 九万円也

前田 孝雄様

一、金 六万円也

小笠原武生様

一、金 三万円也

久松 一男様

上村 利子様

久松美知子様

永森 栄一様

森 栄太郎様

渡辺 君様

一、金 二万円也

森尾千恵子様

南大王

一、金 十二万円也

上村 初子様

岡本 弘様

中内

一、金 十二万円也

渡辺 和子様

高原

一、金 十二万円也

門田 浩人様

一、金 三万円也

門田 墨子様

川井

一、金 十二万円也

小松 浩久様

岩本 政弘様

渡辺 幸男様

一、金 三万円也

渡辺 盛朗様

落合

一、金 十二万円也

笹岡 壽男様

上池 サチ様

門田 将男様

近藤幸紀子様

平石 秋了様

一、金 三万円也

三谷 敏文様

前田 品子様

上地 健一様

三谷 賀彦様

前田 孝男様

上地 健一様

三谷 賀彦様

大滝	一、金 十二万円也	笹岡たか子様	平石 義信様	こんどうストアー	岡林 真理様	西梅 優一様	小笠原健一様	一、金 六万円也	小笠原伊豆子様	八畝	一、金 十二万円也	西村 家光様	笹岡 祐介様	小笠原須香子様	信高 春代様	三谷 廣様	西村 時宗様	笹岡 一郎様	西村 尚利様	一、金 六万円也	西村 正尚様	一、金 三万円也	笹岡 利恵様	笹岡 盛政様	西村政次郎様	三谷 裕一様	笹岡 繁男様	立野	一、金 十二万円也	都築 武吉様	一、金 三万円也	田村 主江様	西川	一、金 五十万円也
大平	一、金 十二万円也	三谷 啓子様	西村 家光様	笹岡 祐介様	小笠原須香子様	信高 春代様	三谷 廣様	西村 時宗様	笹岡 一郎様	西村 尚利様	一、金 六万円也	西村 正尚様	一、金 三万円也	笹岡 利恵様	笹岡 盛政様	西村政次郎様	三谷 裕一様	笹岡 繁男様	立野	一、金 十二万円也	都築 武吉様	一、金 三万円也	田村 主江様	西川	一、金 五十万円也									
粟生	一、金 十二万円也	田内美伎子様	西村 尚利様	一、金 六万円也	西村 正尚様	一、金 三万円也	笹岡 利恵様	笹岡 盛政様	西村政次郎様	三谷 裕一様	笹岡 繁男様	立野	一、金 十二万円也	都築 武吉様	一、金 三万円也	田村 主江様	西川	一、金 五十万円也																
東土居	一、金 百万円也	西谷 侑紀様	笹岡 利恵様	笹岡 盛政様	西村政次郎様	三谷 裕一様	笹岡 繁男様	立野	一、金 十二万円也	都築 武吉様	一、金 三万円也	田村 主江様	西川	一、金 五十万円也																				
一、金 十二万円也	一、金 十二万円也	小笠原信子様	西村 尚利様	一、金 六万円也	西村 正尚様	一、金 三万円也	笹岡 利恵様	笹岡 盛政様	西村政次郎様	三谷 裕一様	笹岡 繁男様	立野	一、金 十二万円也	都築 武吉様	一、金 三万円也	田村 主江様	西川	一、金 五十万円也																
一、金 十二万円也	一、金 十二万円也	小笠原信子様	西村 尚利様	一、金 六万円也	西村 正尚様	一、金 三万円也	笹岡 利恵様	笹岡 盛政様	西村政次郎様	三谷 裕一様	笹岡 繁男様	立野	一、金 十二万円也	都築 武吉様	一、金 三万円也	田村 主江様	西川	一、金 五十万円也																
一、金 十二万円也	一、金 十二万円也	小笠原信子様	西村 尚利様	一、金 六万円也	西村 正尚様	一、金 三万円也	笹岡 利恵様	笹岡 盛政様	西村政次郎様	三谷 裕一様	笹岡 繁男様	立野	一、金 十二万円也	都築 武吉様	一、金 三万円也	田村 主江様	西川	一、金 五十万円也																
一、金 十二万円也	一、金 十二万円也	小笠原信子様	西村 尚利様	一、金 六万円也	西村 正尚様	一、金 三万円也	笹岡 利恵様	笹岡 盛政様	西村政次郎様	三谷 裕一様	笹岡 繁男様	立野	一、金 十二万円也	都築 武吉様	一、金 三万円也	田村 主江様	西川	一、金 五十万円也																
一、金 十二万円也	一、金 十二万円也	小笠原信子様	西村 尚利様	一、金 六万円也	西村 正尚様	一、金 三万円也	笹岡 利恵様	笹岡 盛政様	西村政次郎様	三谷 裕一様	笹岡 繁男様	立野	一、金 十二万円也	都築 武吉様	一、金 三万円也	田村 主江様	西川	一、金 五十万円也																
一、金 十二万円也	一、金 十二万円也	小笠原信子様	西村 尚利様	一、金 六万円也	西村 正尚様	一、金 三万円也	笹岡 利恵様	笹岡 盛政様	西村政次郎様	三谷 裕一様	笹岡 繁男様	立野	一、金 十二万円也	都築 武吉様	一、金 三万円也	田村 主江様	西川	一、金 五十万円也																
一、金 十二万円也	一、金 十二万円也	小笠原信子様	西村 尚利様	一、金 六万円也	西村 正尚様	一、金 三万円也	笹岡 利恵様	笹岡 盛政様	西村政次郎様	三谷 裕一様	笹岡 繁男様	立野	一、金 十二万円也	都築 武吉様	一、金 三万円也	田村 主江様	西川	一、金 五十万円也																
一、金 十二万円也	一、金 十二万円也	小笠原信子様	西村 尚利様	一、金 六万円也	西村 正尚様	一、金 三万円也	笹岡 利恵様	笹岡 盛政様	西村政次郎様	三谷 裕一様	笹岡 繁男様	立野	一、金 十二万円也	都築 武吉様	一、金 三万円也	田村 主江様	西川	一、金 五十万円也																
一、金 十二万円也	一、金 十二万円也	小笠原信子様	西村 尚利様	一、金 六万円也	西村 正尚様	一、金 三万円也	笹岡 利恵様	笹岡 盛政様	西村政次郎様	三谷 裕一様	笹岡 繁男様	立野	一、金 十二万円也	都築 武吉様	一、金 三万円也	田村 主江様	西川	一、金 五十万円也																
一、金 十二万円也	一、金 十二万円也	小笠原信子様	西村 尚利様	一、金 六万円也	西村 正尚様	一、金 三万円也	笹岡 利恵様	笹岡 盛政様	西村政次郎様	三谷 裕一様	笹岡 繁男様	立野	一、金 十二万円也	都築 武吉様	一、金 三万円也	田村 主江様	西川	一、金 五十万円也																
一、金 十二万円也	一、金 十二万円也	小笠原信子様	西村 尚利様	一、金 六万円也	西村 正尚様	一、金 三万円也	笹岡 利恵様	笹岡 盛政様	西村政次郎様	三谷 裕一様	笹岡 繁男様	立野	一、金 十二万円也	都築 武吉様	一、金 三万円也	田村 主江様	西川	一、金 五十万円也																
一、金 十二万円也	一、金 十二万円也	小笠原信子様	西村 尚利様	一、金 六万円也	西村 正尚様	一、金 三万円也	笹岡 利恵様	笹岡 盛政様	西村政次郎様	三谷 裕一様	笹岡 繁男様	立野	一、金 十二万円也	都築 武吉様	一、金 三万円也	田村 主江様	西川	一、金 五十万円也																
一、金 十二万円也	一、金 十二万円也	小笠原信子様	西村 尚利様	一、金 六万円也	西村 正尚様	一、金 三万円也	笹岡 利恵様	笹岡 盛政様	西村政次郎様	三谷 裕一様	笹岡 繁男様	立野	一、金 十二万円也	都築 武吉様	一、金 三万円也	田村 主江様	西川	一、金 五十万円也																
一、金 十二万円也	一、金 十二万円也	小笠原信子様	西村 尚利様	一、金 六万円也	西村 正尚様	一、金 三万円也	笹岡 利恵様	笹岡 盛政様	西村政次郎様	三谷 裕一様	笹岡 繁男様	立野	一、金 十二万円也	都築 武吉様	一、金 三万円也	田村 主江様	西川	一、金 五十万円也																
一、金 十二万円也	一、金 十二万円也	小笠原信子様	西村 尚利様	一、金 六万円也	西村 正尚様	一、金 三万円也	笹岡 利恵様	笹岡 盛政様	西村政次郎様	三谷 裕一様	笹岡 繁男様	立野	一、金 十二万円也	都築 武吉様	一、金 三万円也	田村 主江様	西川	一、金 五十万円也																
一、金 十二万円也	一、金 十二万円也	小笠原信子様	西村 尚利様	一、金 六万円也	西村 正尚様	一、金 三万円也	笹岡 利恵様	笹岡 盛政様	西村政次郎様	三谷 裕一様	笹岡 繁男様	立野	一、金 十二万円也	都築 武吉様	一、金 三万円也	田村 主江様	西川	一、金 五十万円也																
一、金 十二万円也	一、金 十二万円也	小笠原信子様	西村 尚利様	一、金 六万円也	西村 正尚様	一、金 三万円也	笹岡 利恵様	笹岡 盛政様	西村政次郎様	三谷 裕一様	笹岡 繁男様	立野	一、金 十二万円也	都築 武吉様	一、金 三万円也	田村 主江様	西川	一、金 五十万円也																
一、金 十二万円也	一、金 十二万円也	小笠原信子様	西村 尚利様	一、金 六万円也	西村 正尚様	一、金 三万円也	笹岡 利恵様	笹岡 盛政様	西村政次郎様	三谷 裕一様	笹岡 繁男様	立野	一、金 十二万円也	都築 武吉様	一、金 三万円也	田村 主江様	西川	一、金 五十万円也																
一、金 十二万円也	一、金 十二万円也	小笠原信子様	西村 尚利様	一、金 六万円也	西村 正尚様	一、金 三万円也	笹岡 利恵様	笹岡 盛政様	西村政次郎様	三谷 裕一様	笹岡 繁男様	立野	一、金 十二万円也	都築 武吉様	一、金 三万円也	田村 主江様	西川	一、金 五十万円也																
一、金 十二万円也	一、金 十二万円也	小笠原信子様	西村 尚利様	一、金 六万円也	西村 正尚様	一、金 三万円也	笹岡 利恵様	笹岡 盛政様	西村政次郎様	三谷 裕一様	笹岡 繁男様	立野	一、金 十二万円也	都築 武吉様	一、金 三万円也	田村 主江様	西川	一、金 五十万円也																
一、金 十二万円也	一、金 十二万円也	小笠原信子様	西村 尚利様	一、金 六万円也	西村 正尚様	一、金 三万円也	笹岡 利恵様	笹岡 盛政様	西村政次郎様	三谷 裕一様	笹岡 繁男様	立野	一、金 十二万円也	都築 武吉様	一、金 三万円也	田村 主江様	西川	一、金 五十万円也																
一、金 十二万円也	一、金 十二万円也	小笠原信子様	西村 尚利様	一、金 六万円也	西村 正尚様	一、金 三万円也	笹岡 利恵様	笹岡 盛政様	西村政次郎様	三谷 裕一様	笹岡 繁男様	立野	一、金 十二万円也	都築 武吉様	一、金 三万円也	田村 主江様	西川	一、金 五十万円也																
一、金 十二万円也	一、金 十二万円也	小笠原信子様	西村 尚利様	一、金 六万円也	西村 正尚様	一、金 三万円也	笹岡 利恵様	笹岡 盛政様	西村政次郎様	三谷 裕一様	笹岡 繁男様	立野	一、金 十二万円也	都築 武吉様	一、金 三万円也	田村 主江様	西川	一、金 五十万円也																
一、金 十二万円也	一、金 十二万円也	小笠原信子様	西村 尚利様	一、金 六万円也	西村 正尚様	一、金 三万円也	笹岡 利恵様	笹岡 盛政様	西村政次郎様	三谷 裕一様	笹岡 繁男様	立野	一、金 十二万円也	都築 武吉様	一、金 三万円也	田村 主江様	西川	一、金 五十万円也																
一、金 十二万円也	一、金 十二万円也	小笠原信子様	西村 尚利様	一、金 六万円也	西村 正尚様	一、金 三万円也	笹岡 利恵様	笹岡 盛政様	西村政次郎様	三谷 裕一様	笹岡 繁男様	立野	一、金 十二万円也	都築 武吉様	一、金 三万円也	田村 主江様	西川	一、金 五十万円也																
一、金 十二万円也	一、金 十二万円也	小笠原信子様	西村 尚利様	一、金 六万円也	西村 正尚様	一、金 三万円也	笹岡 利恵様	笹岡 盛政様	西村政次郎様	三谷 裕一様	笹岡 繁男様	立野	一、金 十二万円也	都築 武吉様	一、金 三万円也	田村 主江様	西川	一、金 五十万円也																
一、金 十二万円也	一、金 十二万円也	小笠原信子様	西村 尚利様	一、金 六万円也	西村 正尚様	一、金 三万円也	笹岡 利恵様	笹岡 盛政様	西村政次郎様	三谷 裕一様	笹岡 繁男様	立野	一、金 十二万円也	都築 武吉様	一、金 三万円也	田村 主江様	西川	一、金 五十万円也																
一、金 十二万円也	一、金 十二万円也	小笠原信子様	西村 尚利様	一、金 六万円也	西村 正尚様	一、金 三万円也	笹岡 利恵様	笹岡 盛政様	西村政次郎様	三谷 裕一様	笹岡 繁男様	立野	一、金 十二万円也	都築 武吉様	一、金 三万円也	田村 主江様	西川	一、金 五十万円也																
一、金 十二万円也	一、金 十二万円也	小笠原信子様	西村 尚利様	一、金 六万円也	西村 正尚様	一、金 三万円也	笹岡 利恵様	笹岡 盛政様	西村政次郎様	三谷 裕一様	笹岡 繁男様	立野	一、金 十二万円也	都築 武吉様	一、金 三万円也	田村 主江様	西川	一、金 五十万円也																
一、金 十二万円也	一、金 十二万円也	小笠原信子様	西村 尚利様	一、金 六万円也	西村 正尚様	一、金 三万円也	笹岡 利恵様	笹岡 盛政様	西村政次郎様	三谷 裕一様	笹岡 繁男様	立野	一、金 十二万円也	都築 武吉様	一、金 三万円也	田村 主江様	西川	一、金 五十万円也																
一、金 十二万円也	一、金 十二万円也	小笠原信子様	西村 尚利様	一、金 六万円也	西村 正尚様	一、金 三万円也	笹岡 利恵様	笹岡 盛政様	西村政次郎様	三谷 裕一様	笹岡 繁男様	立野	一、金 十二万円也	都築 武吉様	一、金 三万円也	田村 主江様	西川	一、金 五十万円也																
一、金 十二万円也	一、金 十二万円也	小笠原信子様	西村 尚利様	一、金 六万円也	西村 正尚様	一、金 三万円也	笹岡 利恵様	笹岡 盛政様	西村政次郎様	三谷 裕一様	笹岡 繁男様	立野	一、金 十二万円也	都築 武吉様	一、金 三万円也	田村 主江様	西川	一、金 五十万円也																
一、金 十二万円也	一、金 十二万円也	小笠原信子様	西村 尚利様	一、金 六万円也	西村 正尚様	一、金 三万円也	笹岡 利恵様	笹岡 盛政様	西村政次郎様	三谷 裕一様	笹岡 繁男様	立野	一、金 十二万円也	都築 武吉様	一、金 三万円也	田村 主江様	西川	一、金 五十万円也																
一、金 十二万円也	一、金 十二万円也	小笠原信子様	西村 尚利様	一、金 六万円也	西村 正尚様	一、金 三万円也	笹岡 利恵様	笹岡 盛政様	西村政次郎様	三谷 裕一様	笹岡 繁男様	立野	一、金 十二万円也	都築 武吉様	一、金 三万円也	田村 主江様	西川	一、金 五十万円也																
一、金 十二万円也	一、金 十二万円也	小笠原信子様	西村 尚利様	一、金 六万円也	西村 正尚様	一、金 三万円也	笹岡 利恵様	笹岡 盛政様	西村政次郎様	三谷 裕一様	笹岡 繁男様	立野	一、金 十二万円也	都築 武吉様	一、金 三万円也	田村 主江様	西川	一、金 五十万円也																
一、金 十二万円也	一、金 十二万円也	小笠原信子様	西村 尚利様	一、金 六万円也	西村 正尚様	一、金 三万円也	笹岡 利恵様	笹岡 盛政様	西村政次郎様	三谷 裕一様	笹岡 繁男様	立野	一、金 十二万円也	都築 武吉様	一、金 三万円也	田村 主江様	西川	一、金 五十万円也																
一、金 十二万円也	一、金 十二万円也	小笠原信子様	西村 尚利様	一、金 六万円也	西村 正尚様	一、金 三万円也	笹岡 利恵様	笹岡 盛政様	西村政次郎様	三谷 裕一様	笹岡 繁男様	立野	一、金 十二万円也	都築 武吉様	一、金 三万円也	田村 主江様	西川	一、金 五十万円也																
一、金 十二万円也	一、金 十二万円也	小笠原信子様	西村 尚利様	一、金 六万円也	西村 正尚様	一、金 三万円也	笹岡 利恵様	笹岡 盛政様	西村政次郎様	三谷 裕一様	笹岡 繁男様	立野	一、金 十二万円也	都築 武吉様	一、金 三万円也	田村 主江様	西川	一、金 五十万円也																
一、金 十二万円也	一、金 十二万円也																																	

[illegible]

小笠原育彦様
小笠原喜代子様
小笠原祥一様
小笠原利夫様
小笠原秀郎様
小笠原 正様
小笠原光子様
門田 健夫様
上地 正子様
上村 馥様
上村 積夫様
上村 太喜夫様
上村 吉秋様
上村 賀彦様
上村 義久様
北窪 堅一様
北添ひとみ様
小松 一郎様
佐野 茂様
澤田 美紀様
下村 元明様
高橋 節子様
砂田 英伸様
瀧下 靖夫様
田内喜久世様
中西 清彦様
長野 智晴様
永森 孝弘様
永森 美智様
西村 満恵様
信高 幸子様
平石 甲子郎様
平石 礼子様
平石 君子様

藤田恵美子様
藤原憲一郎様
藤原 恵様
三谷 加子様
松田 時江様
三谷 孝子様
三谷 直行様
三谷 義兼様
三谷 栄男様
森本 晃行様
山崎 豊様
山中 末子様
山中 展子様
山本 光子様
吉永 俊誠様
吉村 英法様
渡辺 茂信様
渡辺 美佐子様
渡邊 道男様
石本喜久子様
大崎 一男様
徳増 和男様
弘瀬登美子様
岩村 久様
豊永 正富様
門田 速雄様
笹岡 良男様
上田 直人様
氏原 靖夫様
大崎 和様
尾立 靖宣様
佐竹 英敏様
白石 重喜様
都築登喜子様

一、金 十万円也
戸田 知恵様
山中 典子様
一、金 九万円也
上村 正男様
西村 正様
藤原 一男様
三谷 一彦様
三谷 純清様
三谷 宏様
小笠原敏雄様
畦地美知子様
一、金 六万円也
上村 満尚様
都築 敏郎様
中川 和博様
一、金 五万円也
豊永 啓一様
岡崎 正典様
一、金 三万円也
飯田 順一様
氏原 靖規様
小笠原侶子様
門田 忠様
北窪 康宏様
小松 英正様
小松猪佐夫様
笹岡袈裟穂様
笹岡 朝吉様
永森 利博様

西村 孝様
信高 顕彦様
松高 治吉様
松田 修昌様
吉村 広様
井口シズエ様
三谷 直美様
酒井 友子様
鶴原 正一様
永野美榮子様
三谷 哲生様
三谷 虎子様
一、金 二万円也
上村 敏彦様
和田 樹霖様
一、金 一万円也
小笠原由美子様
三谷 晴澄様
三谷 幸正様
宮崎 聖也様
上岡 孝夫様
山崎 匡様
南国市
一、金 二十万円也
三谷 せつ様
一、金 十二万円也
小笠原雪子様
小笠原良一様
金子 糸枝様
門田 利彦様
北村 竝生様
小林 綾子様
佐竹 弘敏様

都築 正子様
豊永 英夫様
西村美津子様
古地 裕和様
前田 和男様
松高 清信様
三谷 政博様
三谷 俊美様
三谷由美子様
村上 三郎様
森本 憲昌様
下村 定様
佐竹 文雄様
一、金 十万円也
佐竹 京子様
三谷 富盛様
一、金 九万円也
岡崎ヨシ子様
小笠原美智様
永澤 悦穂様
依光 佳景様
大家 福盛様
小林 幹雄様
一、金 三万円也
岡崎 太助様
森尾 麻依様
田淵 能生様
一、金 一万円也
一、金 十二万円也
小笠原昭寛様
小笠原邦彦様
小笠原幹雄様

岡山県
一、金 十二万円也
三谷 祐功様
吉岡 和子様

山口県
一、金 十二万円也
小野 千津様

香川県
一、金 五十万円也
小笠原淳也様
一、金 十二万円也
笹岡健太郎様
小笠原 博様
上村 守様
三谷民主雄様

愛媛県
一、金 十二万円也
笹岡正太郎様
下村 忠広様
豊永 信廣様
西村圭太郎様
石川 雅人様

一、金 五万円也
秋山 節雄様

徳島県
一、金 二十万円也
杉浦 悠太様
一、金 十二万円也
岡本 英子様
笹岡千寿代様

中村 義明様
佐加野朱美様
一、金 六万円也
池尻 常様
一、金 三万円也

北浦 奈都様
北浦 奈々様
武井 美和様
武井 秦様
一、金 一万円也

森 富子様
滝口 晃子様
東 雄三様
西岡 純男様

福岡県
一、金 十二万円也
大原 啓典様



講堂 2 階予想図

クラウド ファウンディング からの御寄付

十万円
高知市 楠目 大輔様
大阪府 長谷川将大様

一万円
大阪府 釣井 丈様

兵庫県 工藤 哲也様

東京都 松本 貴之様

兵庫県 立石 真一様

静岡県 河合 智矢様

山口県 小野 有様

山口県 小野 律様

東京都 中島 哲様

東京都 秋山 和範様

東京都 鈴木 佑香様

兵庫県 幸部 吉郎様

五千人 香川 桂子様

香南市 吉田 沙織様

高知市 村瀬 佐保様

大阪府 土井 幸様

三千円 神奈川県 平野 亜喜様

東京都 長谷川瑞絵様

定福寺檀家、信徒、縁者の皆様には講堂建設へ多大なる御協力を賜っております。御志納に對しまして深く感謝申し上げますと共に、ここにご報告申し上げます。

一期・二期・三期・四期と分けてご志納のご予定の方もいらっしゃるかと存じます。どうぞ引き続きご協力をいただきたく、宜しくお願い申し上げます。

金額につきましてはこれまで御志納をいただきました金額の総計を載せさせていただきますております。

尚、「定福寺だより」作成の都合上、令和三年十二月十六日までに御志納いただいた方の御芳名を順不同にて載せさせていただきます。ご了承くださいませ。

現在の講堂志納金の総額は

金 六千二百九十万

三千三十六円

でございます。

御寄付頂いた方の住所について

今回の御芳名は、現住所で記載を致しておりますが、出身地区で記載を希望される方は、ご連絡ください。この名簿が木札となり、講堂に残ることになります。

神像補修作業

定福寺には、廃仏毀釈の際に安置された十数体の神像が安置されています。大変古い年代の神像らしく、修復が必要な状態なのですが、二〇二一年に燻蒸作業をおこない、木片がこれ以上落ちないよう、長老の娘で仏師の明が帰省した際に作業をしてくれました。



仏像調査

定福寺では二〇二三年の開創一三〇〇年・弘法大師誕生一二五〇年にむけて、定福寺や定福寺が関わった豊永郷のことについて調査を行っています。その中で、仏像に關しての調査は、文化庁の研究機関である奈良文化財研究所の星野先生にお越し頂き、調査を始めています。定福寺に寄贈をされ、吉田仏師のもとで修復作業が行われている不動明王も調査いたしました。神像のすべては奈良文化財研究所で調査が行われています。



栗生山歓喜院 定福寺チャンネル

お彼岸や土砂加持法要、お盆のご案内の際にお伝えいたしましたように、定福寺では、YouTubeチャンネルを開設いたしております。法要の様子や豊永郷の様子をご覧いただけます。
是非ご覧くださいませ。



携帯電話のカメラ機能（QRコード読み取りアプリ）起動してここに合わせてください。



人の生も受くるは難く
やがて死すべき者の

今いのちあるは

ありがたし。(法句聖二六三)

令和四年元旦長老龍宏

定福寺の鐘は毎朝七時に
宇宙の中に染みにみ、平和を念じ
ています。恒久の平和を祈る。

長老 釣井 龍宏

植物や動物に生れても、貴いいのちであるが、人間に生れたことは貴くありがたい。

やがてみんな平等に死んでいく。今いのちがあることはありがたい。この上は、世の二為、公為に日々精進努力してまいります。

はい、ありがとうございます。
すみません。

ご詠歌会よりお知らせ

ご詠歌は、仏さま、お大師さまの教えをわかりやすい詞と美しい旋律にのせてお唱えする仏教歌です。ご詠歌は僧侶だけでなく、寺族やお檀家の皆様も一緒に実践できる修行です。歌の上手下手は関係なく、清らかな心で至心にお唱えすることで、心に安らぎと感動を味わうことができます。右手で鉦を打ち、左手には鈴を持ちます。脳の活性化や、声を出すことで、気持ちも明るくなります。

令和三年十月二十九日に、窪川の岩本寺様にて検定会が行われました。

定福寺からは小笠原京子様が少指導を受検され、合格されました。おめでとうございます。検定を受けられることで検



検定の様子

定にあたる曲をしつかりと身につけることができ、より一層、日々の励みになられる事と思います。どうぞ皆様も受検されてください。

楽譜の説明

同行和讃は、最初に学ぶ曲です。

○は鉦で、△は鈴

○— が基音になる。西洋音階の「ソ」の音です。

同行和讃 松本尊憲作詞 作曲

(頭)
わアれらさとのりのひととして
あアさなゆうなのかたときも

(助)
ほとけのおしえエみにつけて
たつきのひびにいそしまん

二、吾等大師の弟子として 同じ覚りに行き歩む
法のはから手とりて 道の友垣詰めなん

三、吾等仏のみ子として 至心に唱うる真言の
功徳遍く世に照りて 平和の浄土いたらん

—— 後野アリ——



ご詠歌本部師範増田理英先生と小笠原京子様

月に二回ほど稽古をしています。ご詠歌用の椅子と机もありますのでご安心ください。ご興味のある方はお気軽にお問い合わせください。

寄進、御奉仕への感謝録

一、金 伍万円也

施主 高知市 北窪正臣 様

菩提寺興隆・先祖菩提

旭観音堂仏具代として寄進

年間の行事（おまつり）の前後や年末年始には、初穂米、野菜、山菜、砂糖、生花、シキビ等々が届けられます。ご信心な方々には、行事ごとにさし上げるお食事の準備を始め、当日のお手伝いや受付をしていただいています。また、責任役員様をはじめ、各地区世話人様、節分世話人様、詠歌会の皆様には多大なご尽力をいただいております。ここに、先祖菩提、仏法興隆のため謹んで御礼申し上げます。

粟生聖天永代浴油祈禱料志納御芳名

一、施主 高知市

(有) 一工務店代表取締役

上村 一正 様

永代日牌供養。

永代納骨供養新奉加御芳名

永代日牌供養とは、当山持仏堂（弘法大師、興教大師御宝前）にお位牌を安置し、毎朝仏飯とお茶をお供えして読経回向し、春彼岸の入りには年回忌を迎える仏さまの卒塔婆を建て、年回忌ごとに先祖代々の場合は5年ごとにご案内しご供養を申し上げます。五十回忌の後もお位牌は末代安置され、ご供養をしまります。

永代納骨は、境内の万霊供養塔にお骨を納めて永代供養を申し上げます。

逆修とは、生前に、亡くなった後の菩提を願って仏事を修することを言います。

一、施主	高知市	重森	弘子	様
一、施主	高知市	森下	理志	様
一、施主	南国市	森下	理志	様
一、施主	森下家先祖代々	了	菩提也	
一、施主	横須賀市	三谷	了	様
一、施主	母 俊美	了	菩提也	
一、施主	高知市	上地	幸男	様
一、施主	幸男様	日牌逆修		
一、施主	妻 恵子様	日牌逆修		
一、施主	幸男様	納骨逆修		
一、施主	妻 恵子様	納骨逆修		

祠堂料志納御芳名

祠堂料とは、亡き仏さまへの報恩謝徳と菩提寺の興隆を念じて奉納される浄財です。その御芳志の高徳にお応えして、菩提寺より亡き仏さまに、院居士・院大姉・居士・大姉の法名が届けられます。

一、施主	高知市	門田	淑子	様
一、施主	南国市	夫 健夫	了	菩提也
一、施主	父 清信	松高	早紀江	様
一、施主	厚木市	近藤	美夫	様
一、施主	父 正幸	了	菩提也	
一、施主	栗生	三谷	忠夫	様
一、施主	母 幸子	了	菩提也	
一、施主	横須賀市	三谷	了	様
一、施主	母 俊美	了	菩提也	
一、施主	大砂子	北村	光幸	様
一、施主	妻 亀子	了	菩提也	
一、施主	高知市	上地	幸男	様
一、施主	妻 恵子	了	菩提也	
一、施主	上東	三谷	良一	様
一、施主	母 好子	了	菩提也	

定福寺永代納骨堂

定福寺には、義光僧正の頃に作られた永代供養墓がございます。最近では、御位牌は仕事の都合があっても、全国どこにでもお連れすることができず、お墓はできないので、永代供養墓に納めてくださいというお話があります。豊永郷だけではなく、全国、またアジア圏でも「亡くなられた方は土に返す」という言葉があるように、土に埋葬をしてあげることが大事だと考えられてきました。かつてはお葬儀が終ればそのまま埋葬し、土に返せていたが、現在では四十九日まで埋葬しないことが多くなり、また土に埋葬する方が少なくなっています。定福寺では、五十年ということではなく、なるべく早く納骨堂の下に土に返してあげるように、お伝えをいたしております。定福寺の永代供養墓は、土に返す形になっており、一度埋葬すると定福寺の土となり、再度改葬することはできなくなりますが、定福寺の土となり、お彼岸やお盆、土砂加持法要の時など供養をさせて頂いております。

永続米（護持会費）の納入についてのお願い （令和4年分）

町内檀信徒の皆様は、各地区総代（護持会代表）・世話人様のお世話により、一月中に納入されています。町外檀信徒の皆様は、振替用紙にてお納めくださいますようお願い致します。尚、納められた浄財は、私たちの総本山智積院への負担金及び定福寺の護持興隆の為に使用させていただきます。（振替用紙をご利用ください）

金 1,500 円以上也

1 月末までにお納めください

郵便口座 口座記号 01620-7

口座番号 12426

加入者名 宗教法人 栗生山 定福寺

2022年

令和4年度年回表

一周忌	令和3年
三回忌	令和2年
七回忌	平成28年
十三回忌	平成22年
十七回忌	平成18年
二十五回忌	平成10年
三十三回忌	平成2年
五十回忌	昭和48年
百回忌	大正12年
以下50年目ごと 仏誕	2588年

連絡先をお伝えください

豊永郷では、人口減少が進んでいます。多くのことは、各地区や近所の方々によって、問題解決されますが、緊急事態の時に頼りの方が外出されていたり、遠方の子供や孫に連絡をしなければならぬ時があるかもしれません。実際に近年、そのようなことが何件ありました。そのような連絡先のために、お子様や親戚の方などの連絡先をお寺にお伝えいただいております。お寺の住所録に記載し、お寺から連絡をとることができます。連絡をする際は、お寺から直接致します。別の方に連絡先だけをお伝えすることはありません。

定福寺持仏堂・旭観音堂のご法事について

定福寺持仏堂や、旭観音堂でご法事を希望される方は、自宅でご法事をしてさし上げる用意に準じて、お供え物などのご持参をお願いします。

○お位牌

○線香、ロウソク二本

（大きめのものがあるがたいです）

○生花、檜（花入れは一对準備しています）

○果物、お菓子（故人が大好きだったものなど）

御霊供膳（仏さまへのお膳）はお寺で準備いたします。

お集まりになる方が大人数となる場合はお知らせください。



土佐豊永万葉植物園に咲く花(十六)



まつ

マツ科(木本類)
日本の代表的樹木。針葉樹。
常緑高木。花期は4月～5月。
写真 五葉松と持仏堂

定福寺持仏堂前、松の木の子二代目がだいぶ大きくなってきました。また、檀信徒会館前には五葉松があります。こちらも大きくなってきました。東アジア地域では、冬でも青々とした葉を付ける松は不老長寿の象徴とされ、同じく冬でも青い竹、冬に花を咲かせる梅と合わせて中国では「歳寒三友」、日本では「松竹梅」と呼ばれ、おめでたい樹とされます。また、魔除けや神が降りてくる樹としても珍重され、正月には神を迎えるために家の門に門松をかざります。

弘法大師、お大師さまも松と縁があります。

高野山の壇上伽藍にある金堂と御影堂の間にそびえ立つ「三鈷の松(さんこのまつ)」と呼ばれている大きな松の木には、高野山創建の秘話があります。

お大師さまが唐で密教を学び帰国する折に、日本で真言密教を広めるための場所を求める為に中国 明州の浜より三鈷杵(さんこしよ)と呼ばれる法具を投げたところ、日本へ向かい飛んでいきました。帰国後にお大師さまが高野山近くへ訪れた際に狩人より毎晩光を放つ松があるとの話を聞きます。その場所へ行ってみると唐より投げた三鈷杵が松に引っかかっていたと伝わります。この事がきっかけで、高野山で教えを広める事を決められ、それから千二百年以上もの長い間この地が真言密教の聖地として続いています。

松は普通、二本か五本の葉っぱなのですが、三鈷の松の木には三鈷杵のように三つに分かれた葉っぱが落ちていて、お守りとして財布の中に入れて持っているとお大師さまのご利益を授かることができると言われています。高野山参拝の折には、三本の松の葉を探してみたいものです。

茂岡に神さび立ちて栄えたる

千代松の樹の歳の知らなく

紀朝臣鹿人(きあそみかひと) (万葉集巻六 九九〇)

歌意…茂岡(現奈良県桜井市)に神々しくたつて栄えている千年も経ったかと思われる松の木はどのくらい樹齢であるかわからないことです。

老松の長久を讃えた歌 「神さびて」とか、「千代松」の表現が伴って、西暦七百年代にはすでに松が長寿をもつことから神格化されていたことがわかります。「松」の名は「待つ」に由来し、常緑で長命な木であることから、神の降臨を待つ木としてふさわしいものになったようです。

高知市広報「あかるいまち」二〇一七年十月号より

学ぶ姿

豊永郷民俗資料館学芸員 釣井 龍秀

平成二十九年度時点で、市内には六十九校の市立学校がある。『高知藩教育沿革取調』によれば、江戸時代には、藩校や家塾、寺子屋が設置され、追手筋の教授館や丸ノ内の致道館をはじめ、県内に約三十二カ所の学ぶ場が設けられていた。藩費を以て他国へ遊学せしめ、若くは私費遊学を許したことは古来間ま之ありと雖(いえど)も、安永年間以降近代に至り最も多しとす」とあり、土佐の人々の学を問う姿勢がうかがえる。

豊永郷(現大豊町東部)の藩士の子であった松浦佐用彦(さよひこ)は、明治七年に東京開成学校に入り、後に東京大学の学生になった。教科書にも登場する大森貝塚の発見で有名な、エドワード・シルバースター・モース(以下「モース」)の助手を務め、日本考古学の第一人者といわれている。

佐用彦は若くして亡くなった。その死を悼(いた)み、モースは、佐用彦の墓石に言葉を残している。

「忠実な学徒にして誠実な友、自然を愛した人。物質界でも精神界でも最後に判定をくだすのは権威ではなく、観察と実験であるとの信念を抱いていた人。それが松浦君であった。」

『モースその日その日ーある御雇教師と近代日本ー』

また、モースは動物学者であったが、日常の生活用具(民具)などへの興味や関心を持ち、日本各地で民具の収集を行い、分類・整理・保管や展示を自ら行っている。

佐用彦の出身地、豊永郷にあり、NPO法人が管理運営する豊永郷民俗資料館には、重要有形民俗文化財二五九五点を含む、県内最大規模の民具が保存展示されている。民俗資料館に隣接する定福寺(じょうふくじ)には、佐用彦の父といわれる松浦楨蔵(ていざう)の史料も残っている。

松浦佐用彦(東京大学総合研究博物館所蔵)



アメリカ人のモースと豊永郷出身の佐用彦の出会いには、不思議な縁である。広く観て、学び、実践する「姿勢」が結びつけたのかもしれない。さまざまなことに興味を持ち、問い学ぼうとする態度は、人生を楽ししく、豊かにする方法の一つだと思う。何事にも真面目な態度で、生活を楽しめる「人生の達人」に憧れる。

定福寺の諸仏像（県指定 12 体 ○印）・堂宇

定福寺本堂

- 阿弥陀如来像(本尊)
- 薬師如来像(脇土)
- 地藏菩薩像(脇土)
- 不動明王像
- 毘沙門天像
- 大聖歓喜天像
- 十一面観音像
- 不動明王像
- 矜羯羅童子像
- 制吒迦童子像
- 大黒天像
- 妙見菩薩像

宝物殿

- 六地藏（笑い地藏）

- 十一面観音菩薩（定福寺奥ノ院）
- 聖徳太子立像
- 不動明王座像
- 弘法大師座像（御影堂）
- 毘沙門天

持仏堂（大師堂）

- 弘法大師座像
- チベット砂曼荼羅・仏具
- 諸菩薩
- 神像
- 行基菩薩座像
- 興教大師座像

国登録有形文化財

本堂、持仏堂(大師堂)

境内

弘法大師修行像
十三仏像・七福神像
観音像
四国 88ヶ所お砂踏
仁王門
薬師堂
水神
熊野神社

定福寺開創 1,298年前
本尊造立 870年前
本堂再建 242年前

令和 4 年 当山年中行事

行 事	日 時
修 正 会 大護摩祈祷 大般若經転読	1月1・2・3日 午前9時より
七 福 神 ま つ り（福笹授与・七草がゆ接待）	1月7日
節 分 会（厄はね歳とり）大護摩祈祷	2月3日 10時
檀 信 徒 年 回 忌 先 祖 総 供 養（彼岸中日）	3月21日
土 砂 加 持 法 要（先祖菩提総供養）法話 12時より	4月1日 14時
加 持 ヶ 峰 奥 ノ 院 大 師 縁 日 大護摩祈祷（旧暦3月21日）	4月21日
花 ま つ り（大念珠まわし・百足除札授与・甘茶接待）	5月8日(旧暦4月8日)10時
蓮 ま つ り（万霊供養）土佐豊永万葉植物園保存会主催	7月初旬～8月中旬
諸 病 き ゅ う り 封 じ 祈 祷 土用の丑	7月23日 9時
お 盆 総 供 養（迎え火）	8月13日 9時
施 餓 鬼 供 養（千体地藏流し・送り火）東土居川原	8月16日 16時
も み じ ま つ り	11月初旬～12月初旬
粟 生 聖 天 結 願 祭（開運福寿）	11月16日 9時～14時
除 夜 の 鐘	12月31日 17時
粟 生 聖 天 ご 縁 日	毎月 1日・16日
詠 歌 会（午前10時～12時）	毎月 2回

御法事を営まれる際はなるべく早目にお申し込みくださいますようお願いします。
（友引は葬儀、法事は執り行いません）お塔婆は1本二千円です。

発行所

真言宗智山派
宗教法人 粟生山 定 福 寺
〒789-0167 高知県長岡郡大豊町粟生
☎ 0887 (74) 0301(代) FAX 0887 (74) 0302
HP: jofukuji-kochi.jp

郵便口座 口座記号 01620-7 口座番号 12426
加入者名 宗教法人 粟生山 定福寺

住 職 釣 井 龍 秀
長 老 釣 井 龍 宏
法類総代 竹林寺住職
責任役員 海老塚和秀
責任役員 下村 堯基
地区護持会 小笠原俊一
遍照講詠歌会議員 一同

令和四年 壬寅